

Sakurajima

桜島の未来をつなぐ

あらたな学校づくり。



2026年春
桜島にあたらしい
学校が生まれます。

桜島をまるごと学び舎に！

新しく桜島にできる学校は、一体どんな学校でしょう？

桜島にある8つの小・中学校を、1つに統合することで生まれる義務教育学校。錦江湾に囲まれ、島そのものが活火山である桜島は、学びや発見に満ちています。そんな桜島が、まるごと学び舎になるような新たな学校がつくられます。一体どんな新しい学びが生まれるか、一緒に考えて、つくっていきましょう。

桜島大根・桜島小みかん 地域の産品を活かした学び

桜島には、桜島大根や桜島小みかんといった豊かな農産物があります。地域の方に農業を教わり、キッチンで調理して、みんなで味わいながら学びましょう。

桜島フェリーで通学

桜島の皆さんだけでなく、鹿児島市街地からも新たなお友達が通学してきたら楽しいですね。

ホームとしての新校舎

新しい学校は、いくつかの棟が集まった集落のような配置をしています。そこには、子どもたちが桜島に学びに出かける時の、ホームのような存在になってほしいという願いが込められています。

廃校となった校舎を 地域の新たな学びの拠点に

新しい学校ができると、桜島にある8つの小・中学校が廃校になります。例えば、廃校になった校舎が図書室になったり、商品開発のためのラボになったり、音楽のイベントをする場になったり、新たな地域の拠点として、想像を膨らませてみましょう。

ここでしかできない学び 火山学習フィールドワーク

世界でも有数の活火山である桜島。火山学者とフィールドワークをしたり、植生を観察したりしてみましょう。桜島の探求や研究を世界中に伝え、広げていきましょう。

椿油づくりを受け継ごう

地域の方がつくり続けてきた椿油。椿畑の育成や種の採取、搾油の作業等、地域に根付く産業を、作り伝えていく学びを考えましょう。

地域を結ぶスクールバス

新しい学校には、スクールバスで通学します。スクールバスで、桜島の様々なフィールドに探索に出かけることができたら、学びの機会が広がりますね。

錦江湾の海から学ぼう

桜島は錦江湾に囲まれ、海からの学びの宝庫です。地域の方から海のことを教えてもらったり、実際に漁業の現場を体験したりすることもできるかもしれません。

地域の循環を促す学び

生ごみコンポストを設置し、給食や地域の生ごみで堆肥をつくり、畑にお返しすることで、自然の循環を学びましょう。

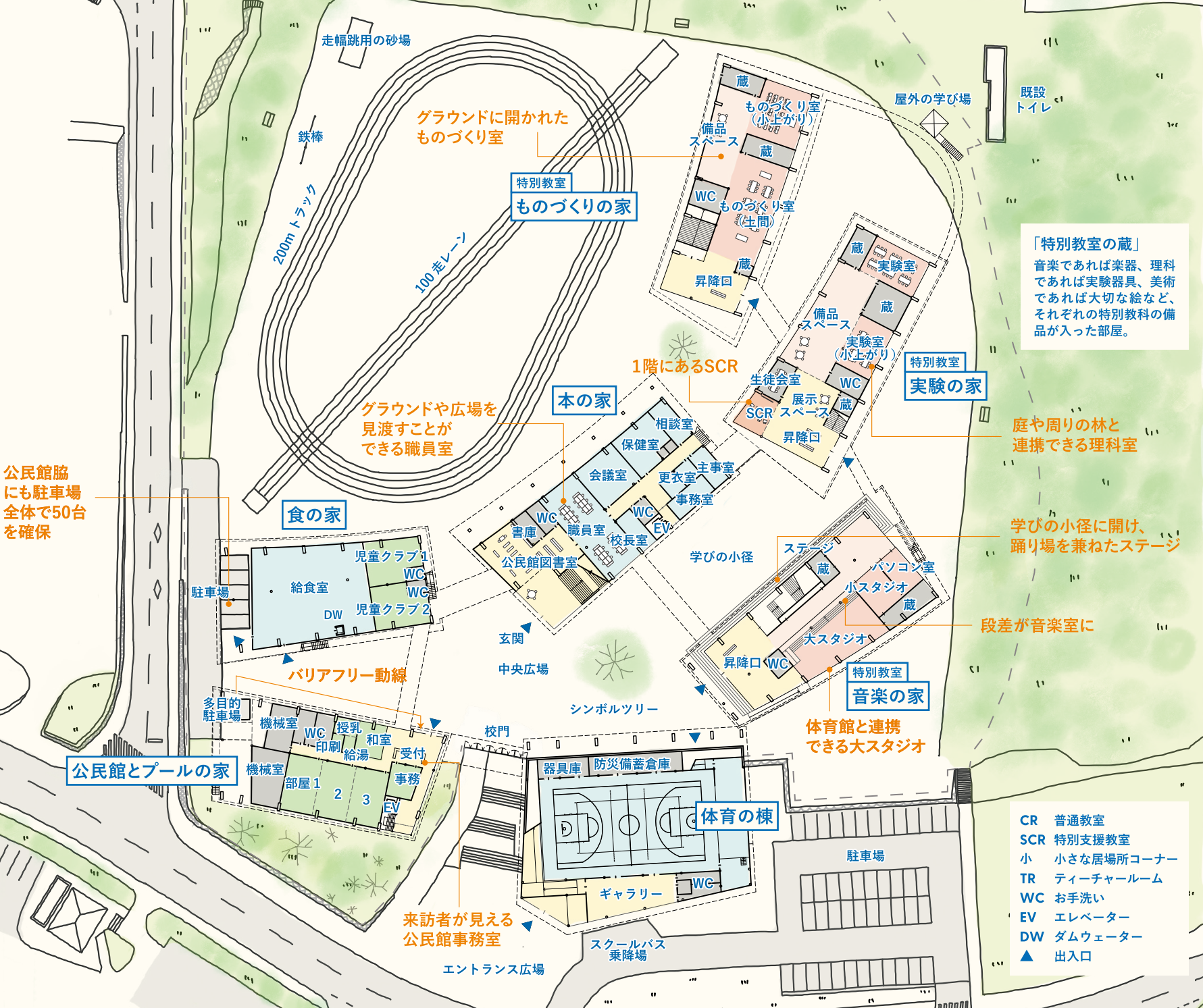


こんな学校ができます。

1階 平面図
S=1:900

鹿児島に息づく郷中教育の文化を引き継ぎ、互いに教え学び合える場へ

先輩が後輩を教えることで、強い結束を生み出してきた鹿児島の郷中教育。新しい学校は、1年生から9年生が学ぶ『義務教育学校』なので、集落のような教室棟一つ一つに、学年の異なる3つの教室が配置されることで、子どもたちが学年を超えて、教え学び合える環境を目指しています。



● 出合いの場としての中央広場

エントランス広場の階段を登ると、シンボルツリーのある中央広場に入ります。体育館や公民館、図書館、児童クラブなど様々な活動が集まる中央広場は、地域の方と子どもたちが出会う場所です。

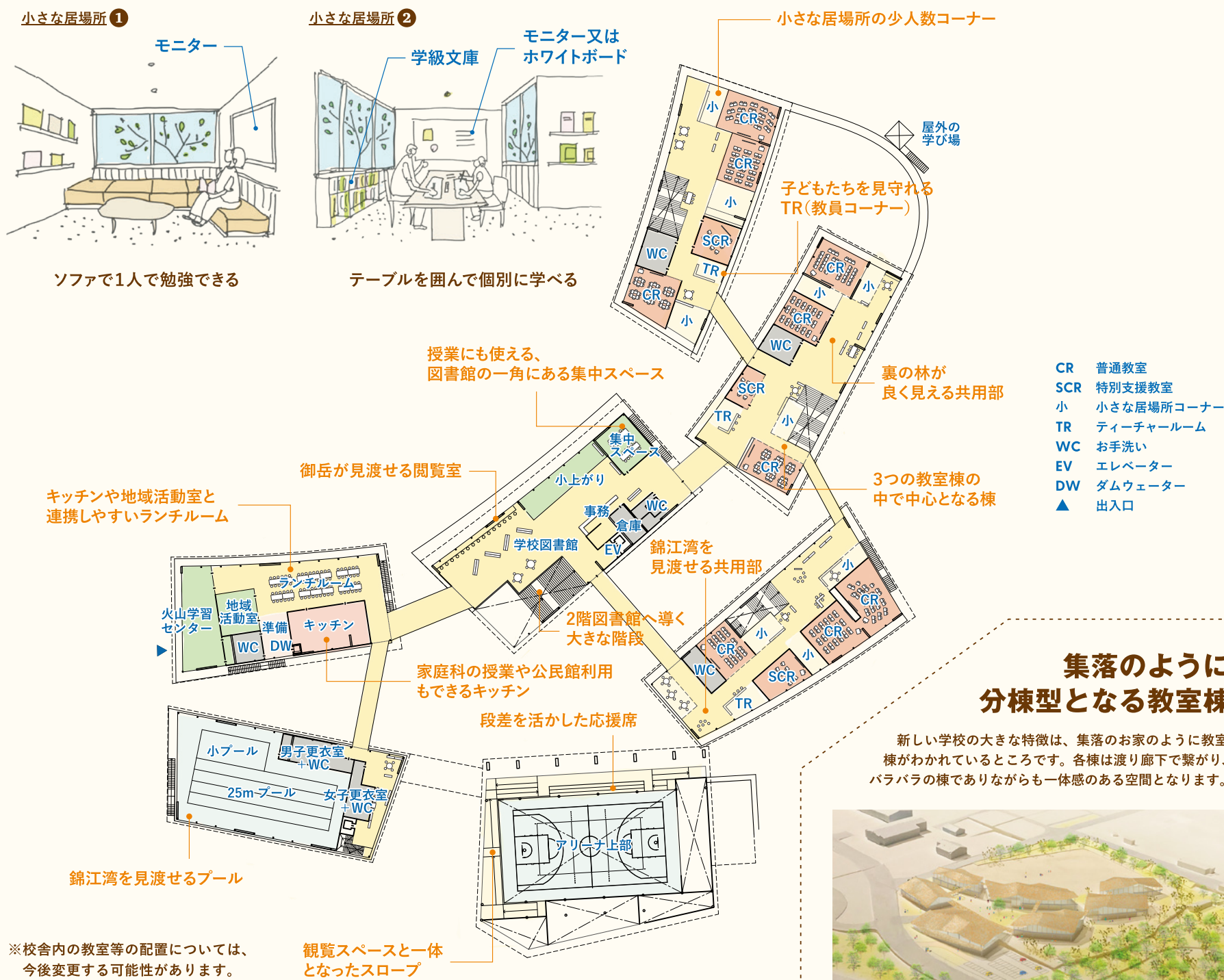
● ギャラリーのあるスクールバス乗り場

体育館前のスクールバス乗り場にはギャラリーを併設することで、バスを待ちながら、子どもたちの展示を見ることが出来ます。

● ときどき教室、ときどき遊び場となる小さな居場所

廊下のあちこちに、時には少人数のための教室に、時には子どもたちの遊びや読書の場となる小さな居場所が散りばめられています。

2階 平面図
S=1:900

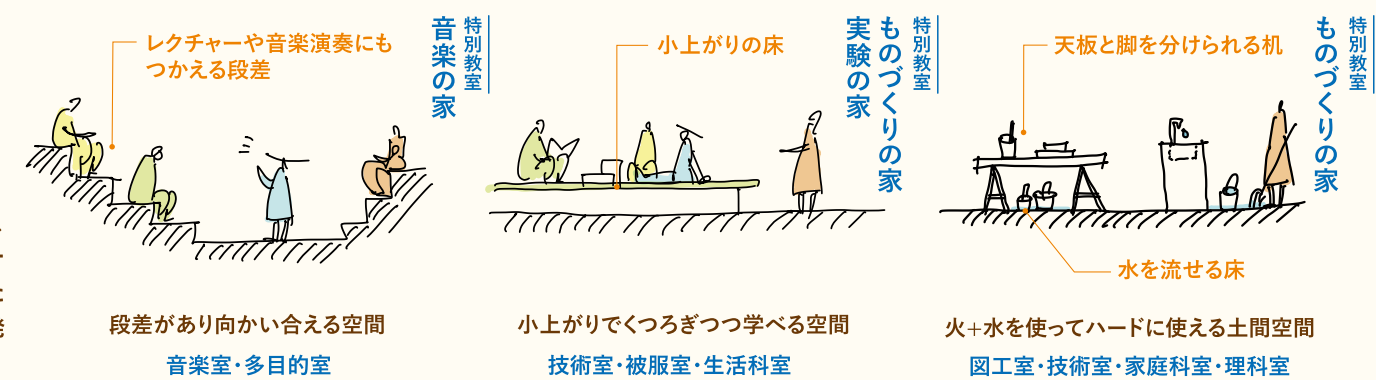


集落のように分棟型となる教室棟

新しい学校の大きな特徴は、集落のお家のように教室棟がわかれているところです。各棟は渡り廊下で繋がり、バラバラの棟でありながらも一体感のある空間となります。

特別教室を、トクベツな場所に！

たくさんの道具が壁に並んでいたり、ランチャールームとつながるカウンターがあったり、足触りのいい床だったり。空間の工夫が多様な学びを触発する「特別」教室をつくります。



これまでのプロセス

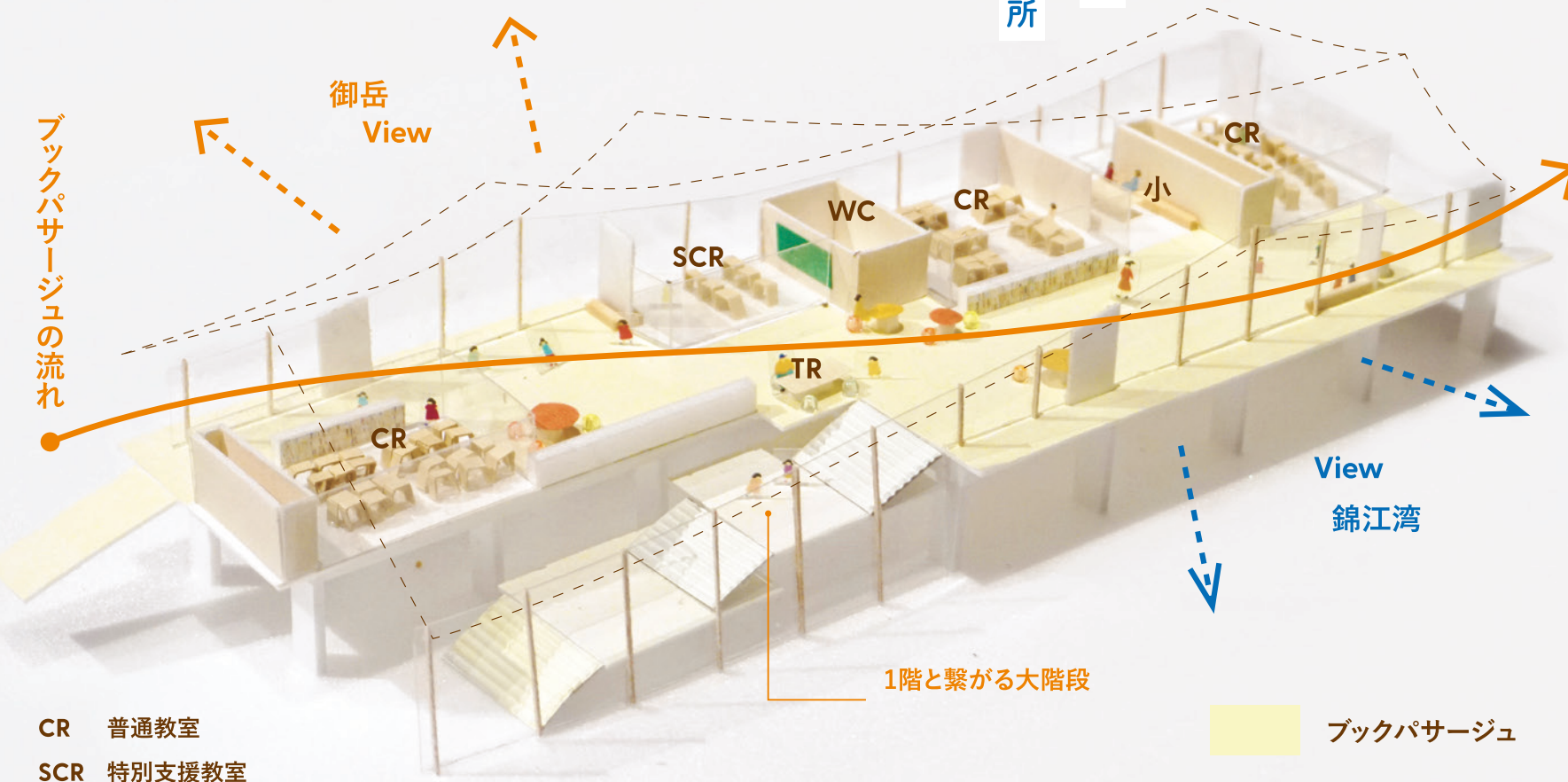
- 2022/10/2 **第1回地域説明会**
地域・学校関係者の皆さんに選ばれたプロポーザル案（新たな学校の設計案）をご説明しました。
- 2022/11/1,2 **桜島各学校視察・まち歩き**
桜島の小・中学校へヒアリングに伺い、視察や、まち歩きをしながら地域の魅力を教えていただきました。
- 2022/11/1 **ワークショップ**
新しい学校でこんなことが起こるといいな！というアイデアを、1人1人が付箋に書いて、発表しました。
- 2022/12/5 **桜島各学校視察**
2回目の学校視察・ヒアリングを行いました。地域とともにある学校のあり方、子ども達との向き合い方を伺いました。

これまでのプロセス

- 2022/12/6 **山鹿小学校視察**
熊本県の先進事例である山鹿小学校に、整備検討委員会・学校整備室・設計事務所メンバーで、視察に行きました。
- 2023/2/15 **第2回地域説明会**
地域の皆さんに基本設計の途中経過をご説明し、さまざまなご意見やご質問をいただきました。
- 2023/4/5 **第3回地域説明会**
地域の皆さんに、模型とともに新しい配置やプランについてご説明し、基本設計の方針を確認しました。
- 2023/4/27,28 **桜島各学校説明会**
桜島の小・中学校に基本設計案の説明をしました。新しい学校に期待することをたくさん教えてもらいました。

学校の廊下が図書館に！ 教室をつなぐ「ブックパサージュ」

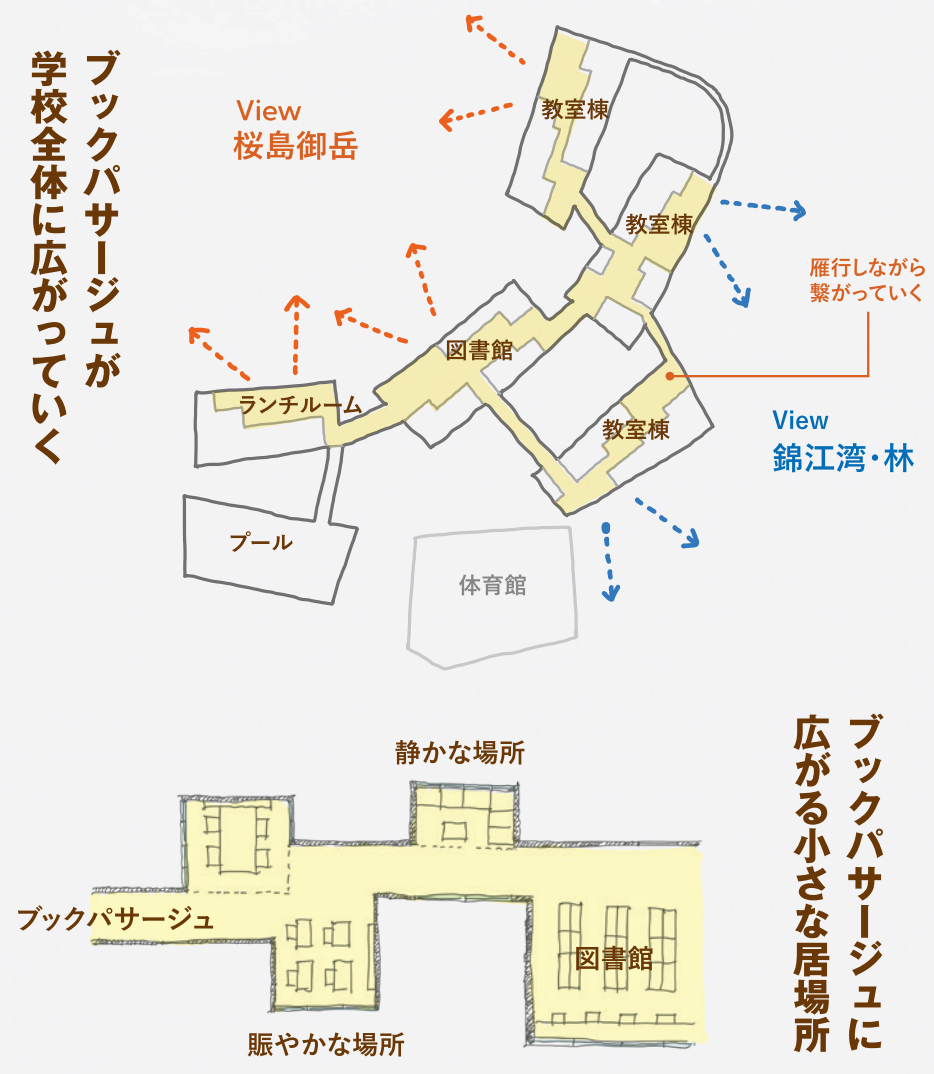
通常、移動のための空間である学校の廊下。そんな廊下にベンチやソファがあったら、廊下もみんなの居場所になります。新しい学校では、廊下全体が「ブックパサージュ」と呼ばれる、「本のある廊下」になります。ブックパサージュが棟を斜めに横切ることによって、桜島御岳や錦江湾へと視界が広がります。



ブックパサージュとは
本棚が置かれた通り

本がつくる
豊かな
学びの居場所

一人で過ごしても、みんなで過ごしても安心できる居場所へ



ブックパサージュに
広がる小さな居場所

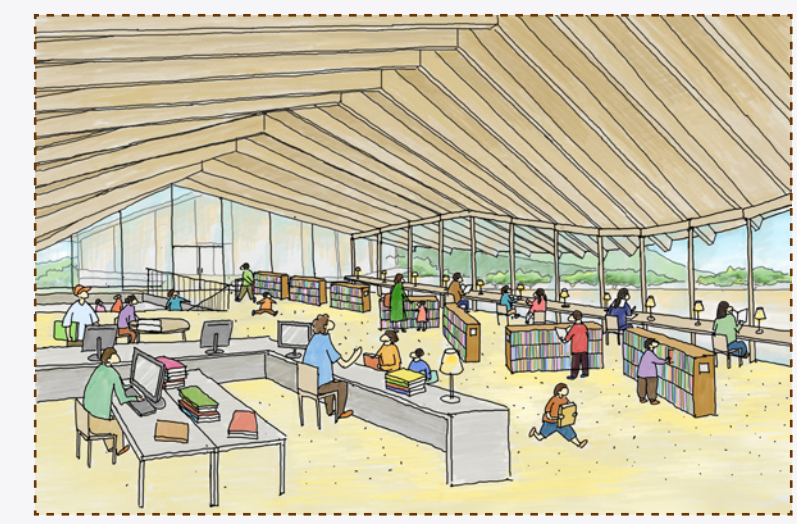
集落のように分棟型となる教室棟を やわらかく結ぶ「学びの小径」

集落のように連なる教室棟の間には、さまざまな特別教室が面する「学びの小径」があります。ものづくりや音楽、実験など、桜島をフィールドとした他学年の学びの様子が垣間見られる場です。



地域とともにある、 まちづくりのきっかけとなる学校へ

新たな学校づくりの中の、見どころのポイントを紹介します。地域にも開かれた個性豊かな場づくりのアイデアをちりばめています。



— point.1

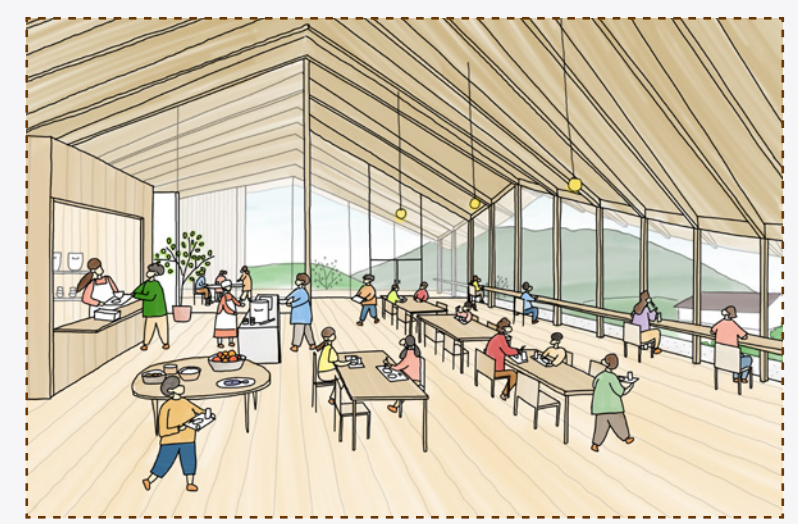
図書館は学びの中心となる、大切な場所。学校に通う子どもたちはもちろん、地域にも開かれた場となります。1階はアクセスしやすいくつろぎの場所に。2階は桜島御岳に視界の開けるのびやかな場所に。自習スペースや、小上がり、授業もできる会議室など、さまざまに活用できます。

地域に開かれた、
見晴らしの良い、
図書館

地元の食材を 味わいながら学ぶ ランチルーム

— point.2

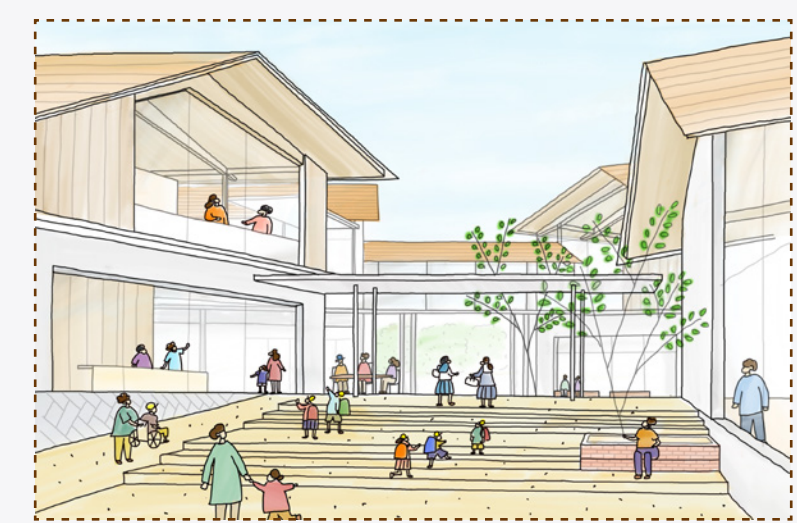
ランチルームは、子どもたちが給食を食べる場所。木をふんだんに使った、気持ちの良い空間です。調理実習室としてのキッチンも隣接しているので、地域の食材を使ったイベントを開催するなど、食育にもつながります。食を通じた学びやコミュニケーションを促す空間です。



— point.3

学校の入り口には公民館があり、子どもたちを、地域の方々とともに見守りやすい配置計画となっています。縁側のある和室や多目的に使える部屋などがあり、地域の方々が目撃なくとも日常的に訪れたい場所を目指しています。地域とつながる学校づくりを目指します。

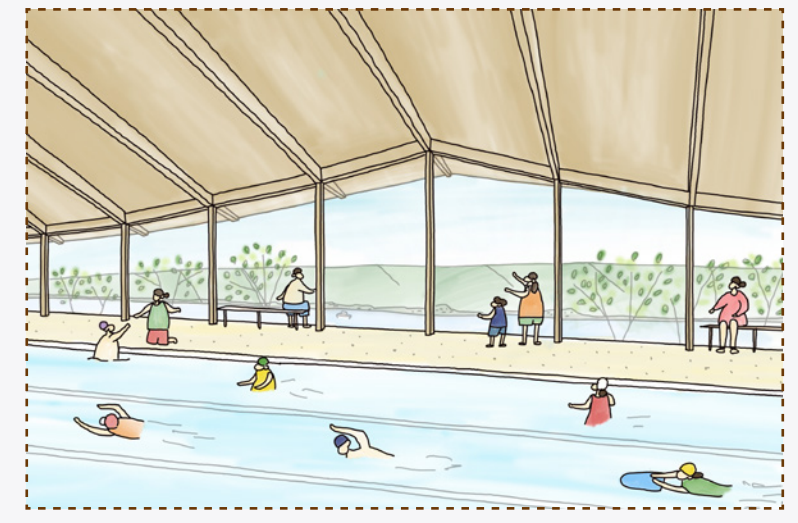
子どもたちを
見守る学校と
一体の公民館



錦江湾が見渡せる 開放的な 温水プール

— point.4

公民館の上階には、屋内の温水プールが設置されます。錦江湾が良く見渡すことができる、開放的なプールになります。プールは、地域の方も利用することができます。桜島の地域にとっての、健康づくりの拠点の一つとなるように皆様にとって使いやすい計画をしていきます。



学校づくりの担当者からのメッセージ

桜島に義務教育学校をつくる

学校整備室 室長 岩坪秀樹



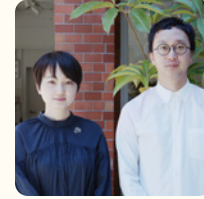
学校を新しく作るという仕事、それを担当できるチャンスはなかなかありません。新しい学校が最後に作られたのが平成6年の伊敷台中で30年ぶり、担当できるのは職員5,500人のうちの5人、0.09%の確率です。もしかして運を使い果たしているのでは？くらいの幸運です。担当するからには、どうやって「これまでにない学校」「桜島のシンボルとなる学校」「地域に開かれ、核となる学校」を作るのか、一生懸命考えています。前例踏襲もできません。何しろ、今までにない学校ですから。設計者を選ぶのも、条件をこれまでに無いものにして、たくさん応募してもらおうと考えました。そして最終審査では、4者による鹿児島市初となる公開プレゼンテーションも行い、その結果選ばれたのが、

大西麻貴+百田有希 /o+hです。提案された設計は確かにこれまでの学校とは一線を画しています。イメージ図を見ただけでもわかると思います。この革新的な学校に対し、最初は戸惑いがあるかもしれませんが、みんなで過ごしていく中で、「こんなこともできるんだ。」といういろいろな可能性が見えてきて、楽しい学校を作っていくはずですよ。この新しい学校は、これからの鹿児島市の学校のあり方にも、良い影響を与えていくことになる、そうなるように頑張りたいと思っています。学校の完成見学会でのBGMには、「ピフォーアフター」のあの曲を流しましょう。きっと皆さんの頭の中を「なんとということでしょう」のナレーションが何度も響き渡るはずですよ。

設計を担当している建築家からのメッセージ

子どもたちの学びが、まちの未来をつくる

建築家 大西麻貴 + 百田有希 /o+h



新しくできる桜島の義務教育学校は、一体どんな学校でしょう？私たちは、新しい学校を拠点に、島全体に子どもたちが出かけていく、桜島全体が学びのフィールドとなる学校を想像しています。鹿児島に長きにわたって培われてきた自然や文化を引き継ぎ、桜島だからこそ触れられる、地域に根ざした学びがある学校、この土地で育った記憶が子どもたちの誇りとなる学校を考えていきたいと思っています。また、これからの社会では、互いの違いを認め、違いを大切にしているインクルーシブな価値観が大切です。障がいの有無や人種、家庭環境や性格の違いにかかわらず、誰もが自分の場所だと思える空間、互いの違いを寛容に認めあえる環境をつくりたいと考えています。

友達と一緒に学んだり遊んだりするのが大好きな子にとっても、時には一人で静かに過ごしたい子にとっても居心地の良い、多様な居場所がある学校を目指しています。建築そのものにおいて、これまでにない学校づくりにチャレンジすることはもちろんですが、学校ができるまでのプロセスを通じて、桜島だからこそ考えられる新しい学びを先生方や地域の皆さんと共に育てていくことで、学びの有り様と建築とが一体となった、より新しい学校が生まれていくのではないかなと思います。子どもたちの学びを考えることは、まちの未来を考えること。桜島という特別な環境で、まちの未来を育む学びの場を、ぜひ実現しましょう！

学校づくり これからのスケジュール

2022.9 プロポーザルにて設計者選考

12社の応募作品の中から、桜島公民館での公開プレゼンテーションを経て、大西麻貴 + 百田有希 / o+h が設計候補者に選ばれました。

基本設計 (2022.9~2023.4)

基本設計は、計画の大きな方針を決定する期間です。住民説明会や各学校へのヒアリングを通して、様々なご意見を頂き計画に反映しました。

2023.5 実施設計 (2023.5~2024.3)

実施設計では、基本設計の方針をもとに、構造や設備、教室の使い勝手などより詳しい設計の検証を進めています。

2023.12 校名決定

新しい学校の校名を全国に募集したところ、300件を超える応募がありました。地域のみなさんのご意見も参考にして、12月頃に校名が決まる予定です。

校歌・校章・制服・運動服の方針決定

また、校歌や校章、制服や運動服をどうするかは、今年度のうちに方針を決める予定です。

2024.10 学校の工事スタート

工事は約16か月を予定しています。出来上がっていく過程の様子も楽しみですね。

2026.1 学校の工事終了予定

いよいよ学校が出来上がります。ここから開校に向けて最後の準備です。

2026.4 新しい学校の開校

今の小学校1年生が4年生になる頃に、この学校は開校します。この建物が児童生徒の皆さん・地域の皆さんとともに、どのように育っていくのか、とても楽しみです。

学校づくりに関する Q & A

Q.1

図書館には、学校に通う子どもたち以外も入れますか？

A.

地域の方々にも開かれた図書館になる予定です。学校での学習との棲み分けや、セキュリティの考え方などを、現在検討しているところです。

Q.2

セキュリティは、どう考えられていますか？

A.

公民館の受付や職員室からの視認性を確保。教室棟入口にも先生が滞在できる教員コーナーを設置します。また、地域開放ゾーンと学校ゾーンを分ける鍵のシステムも検討中です。

Q.3

降灰対策は、どのように計画していますか？

A.

屋根の傾斜を確保するとともに、軒をしっかりと出すことで降灰に配慮しています。

Q.4

新しい学校には、どんな部活ができますか？

A.

今ある部活は残したいと考えていますが、まだ決まっておりません。どんな部活が良いか、みなさんと話し合います。

Q.5

廃校となる学校はどのように活用する予定ですか。

A.

まだ決まっておりません。こうなると良いな！という皆さんのご意見をお待ちしています。

発行元：鹿児島市教育委員会事務局 学校整備室

892-0816 鹿児島市山下町6番1号 099-227-1930 gakkouseibi@city.kagoshima.lg.jp

企画：o+h 編集 o+h、久保雄太 (TSUZUKU)
デザイン：久保雄太 (TSUZUKU) イラスト：Yone, o+h

この冊子は、2023年8月時点の情報をもとに制作しています